

「文琳茶入」

2022年制作

十三代高取八山造

高取(木戸)七絵 昭和57年卒

Nanae Takatori

1987年 京都市立芸術大学染織科大学院卒業

1988年 高取焼宗家に嫁ぐ

高取焼を制作しながら、九州産業大学造形短期大学部にて染織の非常勤講師をつとめる。

修猷館高校時代には、東峰村にある高取焼の窯元のことを知りませんでした。

嫁いではじめて、主人が黒田官兵衛公や長政公により朝鮮半島から招かれた直系の子孫だったということを知りました。写真のような茶道具で使う高取焼を420年間制作しています。うちの敷地内には茶室があり、その昔、中国の指導者・孫文が玄洋社の方々と交流した折に寝泊りしていたものを移築しています。いろいろところで藩校であった修猷館との繋がりを感じています。

実父は木戸龍一(昭和31年卒)という彫刻家で、鳥飼八幡宮にある中野正剛像や福岡市美術館の進藤一馬像を制作しました。私はというと、7年前の水害でかなりの被災を受け、その後のコロナ禍の後、なぜか再び昨年の豪雨で2度目の被害を被り、登り窯・唐臼を復活させるべく奔走する毎日です。神様はまだまだゆっくりさせてはくれそうにありません。そんな私ですが、どうぞ宜しくお願いします。



題字・箱島信一書
発行 修猷館同窓会
東京支部事務局

〒185-0034
東京都国分寺市光町2-14-85
(有)バルティール内
FAX 042-573-5060
東京修猷会ホームページアドレス
<https://www.shuyugr.jp/tky/>

再開、再会、再集合！



東京修猷会副会長
等 健次
(昭和45年卒)

明けましておめでとうございます。館友の皆様はご家族と共々清々しい新年を迎えられておられることと思います。

昨年9月9日、新型コロナ後初めて4年ぶりに観客を入れると聞き、第76回修猷大運動会へ行ってきました。4年前に企画したこの会(S45卒)の卒業50周年行事が新型コロナのため延期となり、今年再実施をするため下見に行った訳です。54年ぶり。故川崎隆生修猷同窓会長が自慢されていた人工芝を見たかったし、学生男女比率が4対1から1対1となってどんな運動会になったのか興味津々でした。

晴天の下、競技種目も応援コンテストも、伝統を守り守っていることに驚きました。女子リーダの号令は逞しいものでした。バックや演武・チャタンス、応援コンテストは一夏を費やしたのだなと思わせる立派なもので、バックの替え布、人文字の色数と操作方法に多くの進化が見て取れました。54年前の運動会と重なり合って感慨深いものでした。

東京修猷会総会も新型コロナの試練を受けました。4年前は中止。その後オンライン配信のみで再開。翌年は懇親会なしの会場+オンライン配信、そして昨年6月ようやく懇親会を含む会場+オンライン配信までたどり着きました。300名超が参加したレストランでの懇親会は大いに盛り上がりました。同期を集めるのも大変だった中で、六星会、七猷会、平八会の幹事学年と執行部の皆さんには感謝しかありません。伝統を継承し伝える、行事全体を理解し自分の役割をしっかりと果たす。大運動会と同様の精神を広く共有している賜物だと思っています。

思い返すと、4年前、中国で集団感染が報告された新型コロナウイルスは瞬く間に世界に広がりました。感染力の強さと致死率の高さから、手洗い・マスクはもちろんのこと、3密(密閉、密接、密集)を避けるべく、「外出は控えよ」「大勢での会食はするな」と規制されました。気軽に外出できない、人に会いに行けない、飲みに行け

ないのがストレスでした。私は合唱団に属していますが、合唱はクラスター発生の元凶とされ、練習も演奏会も中止になりました。演奏会は演奏者と観客が同じ時間、同じ空間を共有して初めて成立するものです。録音技術・再生技術は向上し、オンラインでの演奏も試まれましたが、生演奏に勝るものはありません。生演奏では音程、リズム、音色だけでなく、観客も含めた会場の雰囲気、演奏者のエネルギーが伝わって、感動を与えるのではないかと思います。43年前にパリオペラ座の天井敷で聴いたバヴァロッティの声色は今でも忘れません。同時代を生きたことに感謝です。

二木会も中止になりましたが、オンライン配信を経て、会場+オンライン配信のハイブリッドになりました。七猷会が幹事だった昨年5月からは講演の後、講演者を囲んでの懇親会も再開しました。社会は変化していきます。情報通信技術(ICT)のお陰で多様なチャネルから大量の情報にアクセスし、検索できるようなりました。自分の知らない分野で起きていることを知ることは中々難しいものです。修猷OB・OGの持っている知識を共有しない手はありません。

二木会ではこの一年半、馬奈木俊介さん(H6卒)によるSDGsと新国富指標、蒲池みゆきさん(H2卒)によるポストコロナの顔認証と大学運営、服部惣一さん(H4卒)によるラグビーワールドカップのマッチドクターについてなど様々な分野のエキスパートの講演がありました。サロン・ド・修猷では、江崎文武さん(H23卒)を始め現役のミュージシャンのジャズ演奏を、ワインを飲みながら楽しみました。ピアノ、サクソフォン、ベース、ドラムのアンサンブルが、修猷生だけでできるなんて感無量です。以前講演してくれた下川甲嗣さん(H29卒)がラグビーワールドカップ2023フランス大会で日本代表として活躍しました。今年はパリ2024オリンピック・パラリンピック、瀬戸勇次郎さん(H30卒)の活躍が楽しみです。

修猷OB・OGの皆さん、久しぶりに今の大運動会や文化祭を訪れては如何でしょうか？

修猷現役の皆さん、一度は二木会を覗いてみては如何でしょうか？ 毎月第二木曜日19時。会場、オンラインとも学生は無料です。きつと新しい出会いが、新しい気づきがあることでしょう。

最後に、今年が良い年になりますよう、館友の皆様のご健勝とご活躍、東京修猷会のさらなる発展をお祈りして新年のご挨拶とさせていただきます。

東京修猷会2024年活動スケジュール

※各日程・場所は予定であり、変更になる可能性があります。
※二木会講演は6、8月を除く毎月第二木曜日に開催。

- 1月 元旦 会報発行 (住所登録済の全会員に送付) 11日(木) 二木会 於：学士会館
- 2月 8日(木) 二木会 於：学士会館
- 3月 14日(木) 二木会 於：学士会館
- 4月 28日(木) 春期常任幹事会 11日(木) 二木会(新人歓迎会) 於：学士会館
- 5月 21日(日) 二木会ゴルフコンペ 9日(木) 二木会 於：学士会館
- 6月 14日(金) 総会 テーマ「九結」(未来のために繋がりをつなぐ) 於東京プリンスホテル 午後6時より (幹事学年は平成9年卒)
- 7月 11日(木) 二木会 於：学士会館
- 9月 7日(土) サロン・ド・修猷 於：学士会館
- 10月 23日(月) 祝二木会ゴルフコンペ 10日(木) 二木会 於：学士会館
- 11月 24日(木) 秋期常任幹事会 於：学士会館
- 12月 14日(木) 二木会 於：学士会館
- 12月 12日(木) 二木会忘年会 於：未定



令和5年6月9日(金)

令和5年度東京修猷会総会を終えて

於 サンシャインクルーズ・クルーズ

飲食を楽しみながらのリアル開催は4年ぶり!

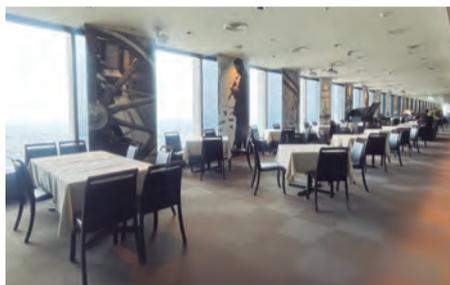
同じ窓辺でまた会いましょう

昨年6月9日(金)、池袋のサンシャインクルーズ・クルーズにて、令和5年度東京修猷会総会を開催いたしました。飲食を楽しみながらの懇親会は、4年ぶりの開催でした。コロナ禍を経ての物価高やホテル業界の人手不足等の事情より、「初のレストラン開催」という前例のない形での会場選



会場の様子をオンライン配信し、会場に足を運べない館友にもリアルタイムで楽しんでもらえるハイブリッド形式に。

定・運営に。準備段階においても大小の困難がありました。幹事学年・平八会(H8卒)を中心に執行部をはじめとする多くの先輩方のお力添えにより、無事に当日を迎えることができました。幅広い世代から集まった高校時代の思い出の写真撮影や、修猷館にまつわる知識を競うクイズ大会



会場は池袋のランドマーク「サンシャイン」都心の一望60階に位置する高層レストラン。58階に位置する高層レストラン。58階に位置する高層レストラン。58階に位置する高層レストラン。

会のコーナーでは、会場のあちこちから歓声や感嘆の声が。総会の様子はオンラインでも配信し、会場参加283名(幹事学年除く)、オンライン24名と総勢300名を超える館友の方々に参加を賜りました。社会全体でも「集うことの価値」があらためて見直される中で実現した、修猷同窓のつながりを確かめ合い、交流を深めるひと時。最後は参加者全員で記念写真を撮影し、「同窓で集えた喜び」のバトンは、九猷会(H9卒)へと渡されました。

令和5年度東京修猷会を終えて

総会実行委員長 大場さおり (平成8年卒)



「集う」「つなぐ」をテーマに4年ぶりに懇親会を含めてリアルでの開催ができた令和5年度東京修猷会総会。振り返ってみると、大小さまざまな山や谷など越えなければいけない物が沢山ありましたが、同級生、先輩方、また後輩の皆さまに相談・協力いただきながら一緒に乗り越えた貴重な時間だったと思います。

会場でお会いした方々に、「同級生と会えて楽しかった、本当にありがとう」という言葉をかけていただき、久しぶり

四半世紀ぶりの達成感

総会副実行委員長 波多江崇史 (平成8年卒)

4年ぶりのリアル懇親会実現を最低目標に、また次年度以降の人数制限なしの完全開催に向けた「つなぎ」役を果たそうと実行委員一同で努めてきました。

総会テーマを「同じ窓辺でまた会いましょう」と掲げましたが、まず同期がなかなか集まらない状況でした。思えば、会社や事業等でまさに大きな責任が掛かる年代となっており、そんなタイミングで幹事学年という大役が巡ってくるのは、本当に「試されごと」です。でも「最後はどう

りリアルでの開催ができて本当に良かったと感じたことを今では懐かしく思い出します。コロナにより社会情勢が変わり、オンラインという新たなコミュニケーションが文化となりました。オンラインでのつながりは、同級生との打ち合わせはやりやすくなったり、当日会場参加が難しい方々の集いへの参加のハードルを下げてくれたりした反面、人員削減や物価の高騰など、開催場所、会費の問題が発生し、総会の検討は会場選びからという例年にはないスタートとなりました。

「総会当日の締め挨拶の時に「やりきった。後悔なし」と思えるように楽しんでね」という言葉をかけていただいた

「かなるやろ」という気持ちもあり、少数精鋭メンバーで前進し続けました。実際に当日は懐かしい同期も多数集まり、執行部や平成9年卒の皆様のお力も借りながら、何とか参加者に楽しんでいただく場を築けたのかなと思います。

当日、恩師としてお越しいただいた中嶋利昭先生から「普段は大丈夫か?」と思わせておいて、やる時はやる学年」と仰っていただき、合点がいきました。ご心配をお掛けしませんでした。皆様からは「当時からそういう学年

ハイブリッド配信を担当して

総会副実行委員長 肥後彰秀



左から肥後・中津のIT担当コンビ

本年度の総会は、コロナ禍を乗り越えもう一度リアルに集う機会にしたい、とはいえず以前と同じではなく、現地参加は叶わないが同じ時間を共有したいという方にも楽しんでいただきた、という想いでハイブリッド配信に取り組

初めて尽くしの総会

司会進行担当 古賀静華

大きな窓がずらりと並んだ、52階のレストラン。会場の下見に訪れた時、この総会は必ず成功する!と確信しました。なぜなら、今年のテーマは「同じ窓辺でまた会いましょう」学び舎に思いを馳せながら、レストランの窓から見下ろす東京の夜景をつまみに、

「同窓」生と語り合う時間は、きっと忘れられないものになる。初めて尽くし、チャレンジの多い総会でしたが、ご参加のみなさまのおかげで無事にお開きとなりました。次の窓辺でまたお会いできる日を、楽しみにしています!



司会の波多江・古賀コンビ

みました。

かくいう私自身も一昨年に移住をし、準備の過程は遠隔での参画となりました。同期との打ち合わせはオンラインが中心でしたが、一方で現地での準備を担ってもらった面もあり、チームワーク、同期の絆があつてこそその運営だったと改めて感じています。

当日は、遠隔地からも複数ご参加いただき、参加機会を広げることができました。会場の、また修猷同窓の熱気と盛り上がりをお届けできていた嬉しく思います。

アンケートにはたくさんの方の回答をお寄せいただき改めて感謝申し上げます。次回以降の開催に活かしてもらえたらと思いますし、また新たなチャレンジが生まれ、変革が続いていくことを期待しています。

るだろうと思っただけです。その予想を裏切ることなく、歓談時間になると、司会の声がかき消されるほどのおしゃべりと熱気です! みなさまがこの4年間、いかにリアル総会を待ち望んでくださったか、ひしひしと感じました。あんなに声を張り上げた司会は、初めて!(笑)。そして、写真撮影のために脚立に上ってアナウンスしたのも、司会の相方が急遽来れなくなり、副実行委員長の波多江君とペア司会をしたのも、当日が初!でした(実は、練習なしのぶっつけ本番...汗)。

朝通勤の際に、バス停で親に抱っこされた小さな子どもとよく会う。子どもの笑顔を見るとこちらも明るくなる。しかし何十年も前に修猷館で学んでいた頃には、子育て支援や少子化対策など考えてもみなかった。大学を卒業後厚生省に入省してから、様々な部署で仕事をしたが、雇用均等児童家庭局総務課長など、子どもに関する仕事に何度か携わることになった。

子ども施策に関しては様々な課題があるが、幅広い課題に対応すべく、こども家庭庁が昨年4月に発足した。固い話をする、こども家庭庁は総理大臣の直属の機関であり内閣府の外局として置かれ、各省に勧告権を持っている。政府ではこども未来戦略方針を昨年6月に策定し、異次元の対策を進めようとしている。今は人口減少対応のラストチャンスであり、財源などの難しい課題もあるが、子どもの育ちや子育てを支援していく方向性に期待している。私はもう少しで高齢者の仲間入りをするが、高齢者中心の施策体系を改め、子どもや若者も大事にする全世代型社会保障への転換が進むことを、これからの未来のために望んでいる。

館友時評 子育て支援への期待

田河慶太(昭和53年卒)

また、子育て支援というと、親の視点からの言葉であるが、子どもの育ちをどう伸ばすのかという視点も重要である。文科省に向向して幼児教育課長を務めた際にそのことを強調



健康保険組合連合会理事(元厚生労働省)

- Q1 修猷館という校名の由来となった『踐修猷』。この記述がある中国の歴史書は?
- ①尚書 ②礼記 ③論語 ④史書
- Q2 修猷館高校は福岡藩藩校が発祥ですが、福岡県内で前身が藩校である高校数は何校?
- ①2校 ②3校 ③4校 ④5校
- Q3 六光星のモチーフとなったのは?
- ①Sagittarius ②Sirius ③Venus ④Polaris
- Q4 修猷生御用達、「ほうらく」饅頭。漢字でどう書く?
- ①蜂蜜 ②蓬菜 ③豊楽 ④炮烙
- Q5 修猷館では昭和24年に初めて女子生徒が入学しま

したが、それは何名だったでしょうか?

Q6 昭和24年に修猷ラグビー部が全国優勝しました。新聞部は号外を出し、一部をどこからバラ撒いたのでしょうか?

①校舎の屋上 ②講堂の屋上 ③岩田屋の屋上 ④福岡タワー

Q7 修猷大運動会名物の「アピラ」。表ピラだけだと最少何名で成立する?

①30名 ②49名 ③28名 ④35名

順位	回答者番号	正解得点
1	秋山晋一 (#90)	751
2	くま (#144)	698
3	まっちゃん (#62)	342

見事「修猷愛クイズ王」に輝いた「秋山晋一」さんとは…? インタビューは右下に続きます



圧倒的人気ナンバーワン六光星モチーフがポイント。樽コースター 1,200円

幹事それぞれが一丸となって、こだわって制作いたしました。ご購入下さった館友の皆様には、ご愛用いただければ幸いです!

西の御空に輝く味!? オリジナルうまい棒 3本セット 500円



会場&オンライン販売で、特に人気を集めたオリジナルグッズを紹介しましょう。



定番人気に新色登場。博多織名刺入れ 2,000円

毎年好評の物販コーナー。今回は事前予約制度も導入しました。

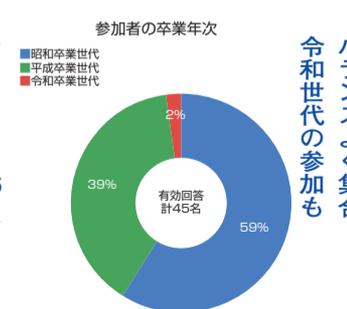
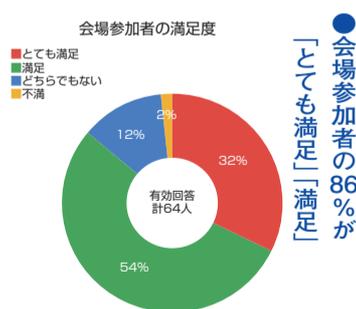
完売御礼! 総会限定オリジナルグッズも好評でした!

R5卒の我々はコロナの影響が素直な感想です。振り返ってみれば、ニックネームにも設定した数学の恩師の授業で培った、7ピラの人数を早く正確に求められる計算力が勝因だったと思います。



佐藤琉海さん (R5卒)

響で一年次に応援歌指導が行われず、修猷愛や伝統という言葉にどちらかというとしニカルな態度をもつ人も少なくなくありません。かくいう私もそういった面はあるのですが、それでもクイズが始まれば1784年や踐修猷といった言葉に頭が反応してしまつたところに修猷館の文化の根深さを感じます。



昭和・平成世代がバランスよく集合! 令和世代の参加も増えています。

会場参加者の86%が「満足」と答えてくださった一方で、例年のホテル開催とは異なる会場のレイアウトやそれに伴う演出にはさまざまなご感想・ご意見がありました。次年度開催幹事学年の九猷会にしっかりと引き継いで参ります。

アンケートで参加者の声を集めました

4年ぶりの懇親会実施、初のレストラン開催など、いくつもの「挑戦」が重なった令和5年度の東京修猷会総会。果たして当日にご参加した館友の皆様には、満足いただけたのだろうか? そんな不安も抱えながら閉会後に集計したアンケートでは、「新たな出会いがあった」「修猷の熱気を感じられた!」「オンラインでも会場の雰囲気を感じる工夫がされていてよかった」など、久しぶりの集合・再会を喜ぶ声が多く聞かれました。

東京修猷会総会令和6年度総会のご案内

きゅうゆう

九 結 ~未来のために、繋がりを結ぼう~

2024年6月14日(金)18:00~ 東京プリンスホテル 鳳凰の間

当日たくさんの館友の皆さまにお集まりいただき、さまざまな繋がりを結ぶことを九猷会一同、楽しみにお待ちしております。

お問い合わせ: kyuyukai.tokyo@gmail.com (実行委員長 竹野耕平)

幹事学年: 平成9年卒「九猷会」

二木会の再開



ディスタンスを保った着席風景



パーティションで区切られた食事会の様子



オンライン開催で無観客の中カメラに向かって話す講師

総会とともに東京修猷会の活動の中核となっている二木会。毎月第二木曜日に神保町の学士会館に集まり、第一線で活躍する修猷館 OBOG の方の講演を聞くというイベントです。この二木会もコロナの影響を受け一時中断、オンラインでの開催を経て、リアルと配信のハイブリッド開催という新しい形になって復活しました。執行部で二木会を担当されていた服部 豊さん(S59卒、2023年6月にご退任)にお話を伺いました。

東京修猷会の屋台骨であり、70年近くにおよぶ歴史を誇る二木会。コロナ渦で中止を余儀なくされ、先行きが見通せない状況で途方に暮れ、これからどうしたらいいのかと熟考を重ねました。その末に出した結論は、諸先輩方が脈々と紡いできた伝統が途切ることがないように、できることから活動を再開しようということでした。そうして、伊藤会長に講師をお願いして初のオンライン

開催となった11か月振りの第654回二木会。予想をはるかに超える229名もの申し込みがあり胸をなでおろし、また多くの館友の方から二木会が復活して嬉しかった、ありがとう、頑張ってたなど心響く感謝や激励のお言葉をいただいて、とても勇気づけられました。

その後は新型コロナの感染拡大状況を見ながら試行錯誤しつつ、段階的に活動を再開してきた経緯は皆さんご存じの通りです。貴重な交流の場である講演終了後の懇親会の再開を見届けて、11年務めた執行部を卒業することができました。オンライン開催を機に会場運営の効率化が進み、またご高齢や遠方の館友の皆さんの参加が増えるなど、まだ途上ではありますが新しい二木会運営の形が確立されたのではないかと思います。これもひとえにご支援いただいた館友の皆さん、ともに苦勞を重ねた幹事学年の皆さん、執行部の仲間のおかげです。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

世の中の動き

2月	外出自粛要請など 第一回緊急事態宣言 4/7 ~ 5/25
3	
4	
5	
6	
7	制限継続 ・酒類提供する飲食店の営業時間短縮 ・イベント人数制限 など
8	
9	
10	
11	
12	緊急事態宣言 1/8 ~ 3/21
1	
2	
3	まん延防止等重点措置 4/12 ~ 4/24
4	緊急事態宣言 4/25 ~ 6/20
5	まん延防止等重点措置 6/21 ~ 7/11
6	緊急事態宣言 7/12 ~ 9/30
7	
8	
9	
10	
11	
12	まん延防止等重点措置 1/21 ~ 3/21
1	
2	
3	
4	制限継続 ・外食人数制限 (1グループ4人まで等)
5	・イベント人数制限
6	・営業時間短縮
7	など
8	
9	
10	
11	
12	
1	マスク着用が任意に
2	
3	
4	
5	新型コロナウイルスは感染症法上5類へ
6	
7	
8	
9	

二木会

第653回	IN-PERSON	運営主体 H5
休会		
総会 キャンセル 二木会 休会		
初のオンライン開催。接続できない、ミュートにできないなどのトラブルが続出したものの、200名を越す事前申し込みがあった		
第654回		執行部
第655回		
第656回		六星会
第657回	ONLINE	
第658回		H6
第659回		
第660回		
第661回		
第662回		
第663回		
第664回		
第665回		
第666回	ONLINE	七猷会
第667回		
第668回		
第669回		
第670回		H7
第671回		
第672回		
第673回		
第674回		
第675回		平八会
第676回	ONLINE	

執行部二木会担当小野 顕さん(H2卒)、岡 武志さん(H6卒)のお話をもとに作成

「丸窓」について

1998年に解体された旧校舎には円形の窓、通称「丸窓」がありました。旧校舎で高校生活を過ごした者たちにとっては修猷と言えば丸窓、丸窓と言えば修猷であり高校生活そのものを象徴する存在です。今回は館友が集まる場を「丸窓」に見立てさまざまな再開、再会、再集合をお届けします。



総会で再集合

東京修猷会総会の会場でひととき輝きを放っていた談笑の輪は、「初の男女共学学年」の昭和27年卒の皆さん。写真左から、浜田竜之介さん、笠耐さん、佐伯康治さん、柴垣和夫さん、田邊萌さんが、澆澗とした笑顔を向けてくださいました。

「コロナ禍の3年余の間に、同期会である『東京27会』の世話会人の維持が困難となりました(8人のうち、2人が他界、2人が高齢者ホーム入居、1人が四国に転出)。令和5年度の東京修猷会総会を『同期会としての最後の集い』の機会にしよう!と声をかけ合って集まりました。」(柴垣さん)。



海外研修の再開



第26回アメリカ研修に参加
太田彩絢さん(3年)



第26回アメリカ研修

参加者: 現役生1~3年までの12人(男女各6人)
行き先: サンノゼ、ロサンゼルス(6泊8日)



28年前に創立210周年記念事業として始まり、毎年継続されてきたアメリカ研修事業。コロナ禍では中止や制限をやむなくされましたが、今年は本格的な再開が実現。参加した太田彩絢さん(3年・新聞部部長)に、第1回に参加した宮本恵理子(H8卒 本号編集担当)がインタビューしました。

— 現地ではどんな研修を？

前半は Apple ビジネスセンターや Google 本社で働く方のお話を聞いたり、現地で起業支援を行うペガサステックベンチャーズ(PTV)を訪問したりと、主に IT ビジネスの最先端の現場に伺いました。日程の後半も、ハリウッド観光や全米日系人博物館、NASA の研究所と盛りだくさんで、最後はメジャーリーグ観戦で大谷翔平選手のホームランを観ることもできました。

— 特に印象に残ったことは？

PTV で働くアメリカ人との対話の中で「ところで君たちはまだ起業していないの？」と聞かれ、「校則でアルバイトは禁止されている」と返答したことに「信じられない」と驚かれたことはカルチャーショックでした。一方で、研修に参加したメンバーの中には、明確に起業の目標を持っている人もいて刺激を受けました。著名な起業家で CEO を歴任したエリー・アントンさんに『究極の目標』を質問した時に返ってきた「自分が死ぬときに、生まれる前より世界が良くなっていること」という答えにも感動しました。「研修前半の3日間だけで夢が変わった」と言う人もいたほど充実の研修を準備して下さった、現地で活躍する松坂秀二郎先輩(九州大学客員教授 S51卒)はじめ、たくさんの方々に感謝しています。

— 研修による価値観の変化はありましたか？

「私にも『起業する』という選択肢があるのだな」と将来に向けた視野が広がりました。他の参加者の中には、「海外大学進学に対する心理的ハードルが下がった」という人もいました。

また、海外の人との対話を通じ、「私にとっての日常」の範囲は「日本の日常」と表現するには狭過ぎることも実感し、もっと広く日本を理解する必要性も感じました。

アメリカの各地でも修猷のネットワークがあることを知って将来が楽しみになりましたし、先輩方が後輩である私たちの未来に期待して多大な協力をしてくださることがありがたかったです。このアメリカ研修が、今後も末長く継続できることを願います。

丸窓の
再開・再会・
再集合!

窓辺でリアル再会!

現役の修猷館ラグビー部の監督の真鍋健治先生と、外部コーチの川崎拓生さん(元ラグビー日本代表、九州電力キューデンヴォルテクス監督)。実はお二人は同級生で、H8年卒のラグビー部OBです。高校卒業後は別々の道を歩まれていたお二人が、リアルに「窓辺での再会」を果たしました。

— お二人と一緒に修猷館ラグビー部を指導するようになったきっかけは

真鍋先生(以下、真): 修猷館には2014年に着任し、今年で10年目です。近年、うれしいことに修猷館ラグビー部は県大会ベスト4の常連校になりました。いい選手も集まり、さらに上を目指すために新しいラグビーを取り入れたいと思い始めた頃、川崎くんが九電の監督を辞めたこと聞き、ダメもとでコーチを頼んでみたくです。思いがけず快諾してくれ、今年で4年目になります。忙しい人なのに、大事な試合の前などは平日でも指導に来てくれて、本当にありがたい。

川崎さん(以下、川): ちょうど監督を辞めたタイミングだったので、修猷ラグビーのために何かできるならと思い引き受けました。

— お二人の役割分担などはありますか

真: 特に役割分担は決めていません。彼はプロのコーチなので、戦術面は任せていますが、それ以外の場面で自分と川崎くんが違うことを言ってもいいと思っているので、事前にすり合わせたりもしていません。生徒たちが自分で考えて選べばいいと思っています。言われたことにすぐ従うのではなく、自分の頭で考えて取捨選択してほしい。そして人間的にも成長してほしい。もう一人の顧問の渡辺先生も同意見なので、3人とも違うことを言っているときもありますね(笑)。

川: これまで渡辺先生や真鍋先生が作り上げてきたコア部分には、私は触れない方がいいと思っています。3人とも違うことを言ってもいいとは思っていませんが、コア部分なので尊重しています。

— 修猷館ラグビー部の強みはどこにありますか。

真: この10年間、必ずベスト4に残っています。強くなったのは生徒の力で、私には特に指導方針などはありません。

実は福岡県の高校では選手不足に悩んでいる学校が多いのです。ラグビー経験者の多くは強豪校の東福岡を目指すか、活躍の場を求めて県外に行ってしまうからです。しかし修猷館にあこがれて入ってきてくれる子がいる。まずそこに修猷館の強みがあります。

また、部員のおおよそ1/3は高校からラグビーを始めた生徒ですが、彼らもレギュラーを取るまで強くなる。そこがもう一つの強みです。ラグビーは、15人のチームの中で一人一人の役割がはっきりしているので、未経験者でも自分の役割を全うできれば活躍できる。自分の役割を理解し、努力できる生徒が多いと思います。



左から、真鍋先生、川崎コーチ

さらに、行事や学校生活を通じてラグビー部以外の生徒からもさまざまな刺激をもらい、さまざまな経験ができる。それもまた、生徒が強くなる要因の一つだと思います。すべては生徒の力、修猷館の力です。

川: 修猷ラグビーの強みは、ディフェンスにあります。ディフェンスでは、協調性や我慢強さ、先読みの正確さなどが求められますが、他校に比較してもその特徴を持った生徒が多いと思います。

— ワールドカップはいかがでしたか？

真: OBの下川選手が活躍したので、部全体で盛り上がりました! 下川選手は現役生の誇りです。

修猷館魂

下川選手コラム

2023年のワールドカップで活躍した下川甲嗣(かんじ)選手(H29卒)が、東京修猷会宛にコメントを寄せてくださいました!

この度はラグビーワールドカップでの日本代表の応援本当にありがとうございました。

大会中のみならず、日頃から同級生をはじめ沢山の修猷卒業生の皆様から激励のお言葉をいただき、本当に力になりました。

選手であるうちは、引き続きラグビーという競技を通して修猷館に恩返しをしたいと思っています。

今後とも御支援ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



H29卒 応援団親衛隊長 近藤桃香さんのご両親、現地の応援席の旗がTVに映り、一時ネットでトレンド入りした



修猷大運動会という伝統を守りたい、次に伝えたいという現役生と先生方の共通した強い思いが、コロナ前と同じ形で完全復活に結びついたのでと思います。

修猷大運動会という伝統を守りたい、次に伝えたいという現役生と先生方の共通した強い思いが、コロナ前と同じ形で完全復活に結びついたのでと思います。

2023年9月9日、第76回修猷大運動会が開催されました。4年ぶりの無制限開催となり、当日は多くの一般観覧客にぎわいました。

コロナ禍において福岡県下の高校が軒並み運動会を取りやめる中、修猷館は、制限を設け時には形を変えながらも運動会を継続してきました。コロナ禍の1年目、2020年は無観客で実施。緊急事態宣言下の2021年は中止(代わりに「伝承会」を実施。タンブリング、応援コンテスト、ダンス、エールのみ、ブロックごとに実施。生徒同士の観覧なし)。2022年は保護者も入れて実施されましたが、3年生の保護者は2名まで、それ以外は1名のみの制限付きでした。

運動会運営委員長を務めた現役高校3年生の田中琉偉さんがコメントを寄せてくださいました。

「今年の大運動会は、感染症の制限のない大運動会を取り戻す、ということを中心に大きなテーマとして実施しました。応コナや競技中の声出しなど、自分たちにとっては今までやってこなかったことも多く、迷うこと、大変なこともありましたが、全力を出し切ることすら出来なかった先輩方の思いも引き継ぎ、僕たちなりの修猷大運動会を創り上げ、4年ぶりに沢山の方々にお見せできたのではないかと思います。

大運動会の全体を見てきた立場として、修猷生が段々と、特に正規練習期間に入り9月9日が近づいてくるとガラリと、姿を変え、修猷館全体のボルテージが上がっていく様子をひしひしと感じていました。その熱が、大運動会にかける思いが、様々な形で修猷生を成長させてくれたひと夏の思い出だと思っています。それぞれの修猷生が、この大運動会で嬉しさも、悔しさも、たくさんを感じました。それらをすべて忘れず、9月9日で終わらせず、これからの人生に、そして勿論、来年の修猷大運動会にも、繋げていきます。」

大運動会 4年ぶり完全復活!



御本殿改修に伴い特別に造営された仮殿

福岡観光の中心地、 太宰府天満宮のいま

太宰府天満宮 最高顧問 西高辻信良 (S47年卒)



我が国が元号を「令和」と改めた年に、太宰府天満宮にはおよそ1000万人という過去最多となる多くの参拝者の方々にお参りをいただきました。海外、とくに東アジア圏のインパウンドの方も大変多く、門前町を含め大変賑わいを見せておりましたが、新型コロナウィルスの影響によりその景色は一変しました。これは当宮だけのことでなく、全国の社寺にとっても深刻な状況でありました。

その中でも当宮では、祭典の維持齋行はもろろんのこと、人々の祈りのカタチや、誰かを想うココロをどのようにして、大切にすることができているのかを思索し、当宮の先人たちが同じような状況下でどのようにして神社を守ってきたのか、明治期の日誌から紐解き、現代の方法と照らし合わせ

ながら、氏子の方々との協議をはじめ、全国からいただくお声にお応え出来るように郵送での御祈願の受付や御守の送付も行いました。

そのような大変な時期ではありませんでしたが、この経験から得たものも多くあります。太宰府天満宮の本質を再確認し、お神さま、そして御崇敬いただく全ての皆様の心に寄り添い、これからは歩みを進めて参りたいと思います。

私たちを取り巻く情勢や、価値観などは刻一刻と変化をしております。流れに逆らうことが是なのか、それともただ身を委ねるのか、わたしは、先人たちから託された守り伝えるべきものの本質を理解、実践しながらも、時代の流れに柔軟に対応した運営(奉仕)を行っていくこそが、重要なことであると思います。

2年の延期を経て 2023年7月 世界水泳選手権開催!

来場者は延べ13万5907人 経済効果は490億円とも



福岡県水泳連盟登録競技役員として大会運営にかかわられた倉光浩二さん(S55卒)のお話

七月に世界水泳、八月に世界マスターズと、ワールドアクアティクス主催の両大会が相次いで開催され、福博の街は世界中から訪れた選手や観客のみならず大いに賑わいを見せました。

コロナ禍で二年延期になり、スタッフや役員として運営に携わる予定の福岡県水泳連盟登録競技役員一同は、少なからずやきもきした思いも抱えていました。いざ大会が始まってからも、マスターズの期間に台風が福岡を襲うという予期せぬトラブルにも見舞われもした。運営に携わった方々の困難を乗り越えて無事に全日程を終えることが出来た喜びはひとしおだったことと思います。



私自身は、世界水泳の競泳競技が行われた全期間、福岡大学のプールで選手の練習を見届けた後、マリンメッセに移り、決勝のゴール地点まで大切に運ぶ仕事です。チームワークがとてもしっかりとしたので、これまで以上に積極的に水泳連盟やボランティアの方々や日々コミュニケーションをとる、仲間づくりをすることもできました。

夜の十一時頃会場を後にする際、すぐ目の前に月の光を背景にポートタワーがそびえ立っていました。子ども時代は「博多パラダイス」の名で親しんだ博多の街のシンボルが、今もまた美しく輝き、幻想的な夜景を醸し出して、少し疲れが癒されるのを感じました。



130分の2

株式会社いそのさわ
代表取締役 中川次郎 (S63卒)

皆さんは、福岡県うきは市をご存知ですか? うきは市には、なんと上水道がありません。市内に住む3万人の人々は、それぞれが自由に井戸を掘り地下水で生活しています。うきはは「酒蔵いそのさわ」も、蔵内の3本の井戸から、こんなと絶えることなく清水が湧いており、創業以来、その名水で日本酒を醸造しています。

その「酒蔵いそのさわ」は、今年、創業130年の節目を迎えました。私が、事業を継承した2年前、世の中はコロナ一色、お酒の販売量は激減し半分の水準まで落ち込み、かなり意気消沈しましたが、考え直してみれば、もともとが経営危機であったのだから、当然、改革が必要、身が軽くなつたと捉えて大きく舵を切りました。まずは、販売チャンネルの多角化、感流流行をチェックしつつ蔵内での大規模イベント開催による直販と通販の拡張。次は、輸出の強化。アジアに近い地の利を活かし、中国、台湾はもとより、東南アジア、インド方面にも輸出の窓口を広げる戦略を立てています。そして基本となる、薄利多売ではなく高付加価値型商品の販路拡大です。これからの主力商品となる「純米酒蔵」は、昨年、福岡県で一番の評価「福岡県知事賞」をいただきました。今年にはフランス、パリの日本酒コンクール「KURAMASTER」でプラチナ賞、全国酒類鑑評会で金賞を獲得しました。

これからも引き続き、うきはの地域振興、それから日本酒文化の伝播と継承、もちろんいそのさわの経営立て直しにも尽力したいと考えています。



★福岡発！修猷館の2023年★

インターハイを
終えて
3年 田口弘樹



修猷館山岳部3年の田口弘樹と申します。この度は執筆の機会をありがとうございます。

修猷館山岳部は普段から、指定された活動(愛宕山までのランニング等)というのは決して多くなく、練習内容などを生徒にかなり任せてくださいます。そのため、自分たちの課題にあった練習ができており、例えば、私たちのチームは読図が課題だったので、部活での登山がない時には、よくメンバーと山に行っていました。



全国2位の快挙!

会を先走走できたのは、やはり先輩方や先生方、OB・OGの方々、そして周りの方々の温かいご指導ご支援のおかげでした。

最後にになりましたが、この度はたくさんのご支援を本当にありがとうございました。

これからも、山岳部は山と向き合い精進していきますので、引き続き皆様の温かいご声援よろしくお願いいたします。



表彰式の様子



「高校生クイズ」
2023」に参加して
3年 坂田修一

私はクイズ研究会に所属していて、日々クイズに打ち込んできました。修猷館高校クイズ研究会は、正式な部活動にはなっておらず、有志団体という形で活動しています。「高校生クイズ2023」では、全国ベスト16という結果を収めることができました。さて、ここで私が考えるクイズの魅力について紹介した



大会の様子

いと思います。それは、クイズの「学びの入り口」としての側面です。クイズは世の中の様々な物事から問題が作られます。だからクイズをしていくと自分が、日頃、気にも留めていなかったものから作られた問題や、一生聞くこともなかったかもしれない人物の

クイズは、誰よりも早くボタンを押して、誰もが知らないようなことを答えるといったところに目が行きがちですが、実はそれだけではありません。押して、答えて、正解する、間違える、その先にもクイズの魅力はつまっています。

修猷館で過ごす中で出会った仲間、知識たちに感謝して、これからの生活を送っていきたいです。

問題に出会えます。それらによつてもたらされる新しい発見が「学びの入り口」となっており、自分でより深く調べてみたり、友人に話してみたりして、少しずつ自分の中に知識、そして感動がしみ込んでいくのです。

2023年 二木会

第670回 R5.1	2023年の日本経済・金融情勢の見通し ～キーワードは「出口」～	左三川郁子氏 (昭和60年卒)	公益社団法人 日本経済研究センター 金融研究室長 兼 主任研究員
第671回 R5.2	スポーツドクターのやりがいと現在地 ～点がつながり豊かな「猷」になる～	服部惣一氏 (平成4年卒)	亀田メディカルセンタースポーツ医学科 部長代理 日本体育協会公認スポーツドクター
第672回 R5.3	早く顔が見たい！ ～ポストコロナ時代の顔認識と大学運営～	蒲池みゆき氏 (平成2年卒)	工学院大学副学長
第673回 R5.4	国際化社会をどう生き残るか ～修猷館卒業生の特性を踏まえて～	久保田勇夫氏 (昭和36年卒)	株式会社西日本フィナンシャル ホールディングス会長
第674回 R5.5	一歩間違えれば死んでいた ～報道現場でみた現実とメディアの未来～	松岡 烈氏 (昭和59年卒)	NHK首都圏局長
R5.6	総会		
第675回 R5.7	脳卒中中制圧への道 ～臨床医と武道の二刀流で目指す医学の確立～	吉村壮平氏 (平成7年卒)	国立循環器病研究センター脳血管内科医長
第676回 R5.9	第16回 Salon de 修猷 Shall we JAZZ? ～現役ミュージシャンに学ぶジャズ講座&生演奏～	江崎文武氏 (平成23年卒・ピアノ) 井上輝之氏 (昭和57年卒・コントラバス) 緒方優一氏 (平成3年卒・サクソ) モリカワサチコ氏 (平成6年卒・ドラム)	
第677回 R5.10	ソニー復活に向けて歩んできたこの10年	河野 弘氏 (昭和56年卒)	ソニー株式会社常務
第678回 R5.11	指揮官の心得と責務 ～イラク復興支援、東日本大震災からの教訓	立花尊顯氏 (昭和51年卒)	元陸将補 日本地雷処理を支援する会理事
R5.12	忘年会		(※肩書き、所属は講演時のもの)

★二木会の講演は、6月、8月、9月、12月を除く、毎月第2木曜日に学生会館で開催。講演後は懇親会を行い、館友同士の交流も盛んです。

★9月は、「Salon de 修猷」として土曜日の昼に開催。

★12月は、忘年会(別会場)のため講演はありません。

皆様、奮ってご参加ください!

東京修猷会 URL <https://www.shuyu.gr.jp/tky/>



東京修猷会
二木会ゴルフコンペ
令和5年9月18日(月・祝)

第51回二木会ゴルフコンペが、松本陸彦さん(昭和39年卒)のご協力のもと、千葉県のグリッサンドゴルフクラブで行われました。厳しい暑さが残る中ではありましたが、好天に恵まれ、36名の方に参加いただき、戦格的なコースでのラウンドを楽しみました。

優勝は井上みゆきさん(平成元年卒)、準優勝は田原光晃さん(平成2年卒)、3位は川西徹さん(平成8年卒)、男子ベスグロはグロス86の田中昭人さん(昭和56年卒)、女子ベス

グロはグロス97の井上みゆきさん(平成元年卒)でした。表彰式に当たっては、皆様より素敵な賞品を多数ご提供頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

二木会ゴルフ幹事
川西 徹、中津 禎希
(平成8年卒 平八会)

今回の第52回二木会ゴルフコンペは、令和6年4月21日(日)に富士小山ゴルフクラブにて開催予定です。皆様奮ってご参加ください。

第16回目を迎えたサロン・ド修猷、今回のテーマは「ジャズの楽しみ方」。生演奏だけではなく、現役ミュージシャンによるレクチャーも交えることでジャズをより体系的に理解し、親しみが持てるようプログラムを構成しました。

今回は会場のキャパシティが許す限りの約90名様にお越し頂き、おかげさまで満員御礼。また、今回ようやくお酒の提供が可能となり、お客様にはたいへん喜んで頂けました。

演奏者として、4名の館友が駆け付けて下さいました。江崎文武さん(ピアノ・平成23年卒)、井上輝之さん(コントラバス・昭和57年卒)、緒方優一さん(サクソ・平成3年卒)、モリカワサチコさん(ドラム・平成6年卒)です。なお、現役のプロミュージシャンである江崎さんには特別講師も務めて頂きました。

まずはスウィング感たっぷりのオーブニングナンバー、デューク・エリントンの「I Don't Mean a Thing (If Swinging)」から。圧巻の演奏で早くも客席のボルテージは高まりました。続いての曲はサクソ奏者チャリー・パーカーの「Billie's Bounce」。三曲目はしっとりとした、楽器同士の競い合いよりも掛け合いを重視し、アート・レイキーの「Moanin」。四曲目はビル・エヴァンス・トリオの「Waltz for Debby」。五曲目はラテン系音楽との融

★Salon de 修猷★
第16回
Shall we JAZZ? ～現役ミュージシャンに学ぶJAZZ講座&生演奏～



合ということで、ハンク・モブリーの「Recado Bossa Nova」を。それぞれの曲の間には、江崎さんからジャズの歴史や演奏方法などについて、論理的かつ分かりやすくレクチャーしていただきました。締め括りはスペシャル企画ということで、「館歌」JAZZ Version」をお届けすることになりました。今回は館歌とメロディを歌わないのはどう

なんでしょうか、今を機に向き合うことが出来て良かったです」とのこと。会場が一体となり、湧き上がった拍手はしばらく鳴り止むことはありませんでした。さらには予想外のアンコールに迎え、名曲「Autumn Leaves」を披露。

お客様も、演奏者も、我々スタッフも、その場にいた全員が心底楽しそうなお顔をみせていました。今回のサロンの開催にあたりご参加・ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

就任の御挨拶

令和五年度 修猷記抄

第34代館長 中神 智文



令和五年四月に第三四代として赴任いたしました中神と申します。昨年の三月末まで福岡県教育庁教育振興部高校教育課で主幹指導主事を務めていました。どうぞよろしくお願いたします。六月九日の東京修猷館会では大変お世話になりました。コロナ禍明けの久しぶりのお酒が入る集まりで、皆様の楽しそうに飲談されている様子を拝見し、こちらも楽しく過ごさることができました。

さて、四月は、始業式、入学式と行事が進んでいきました。が、少し不安げな新入生と比較し、上級生の堂々とした様子は、さすが修猷生、修猷館で一年以上とすると、気持ちも態度も大きく変わっています。対面式では新入生代表が堂々と先輩への挨拶を述べ、その後、上級生からの気合い入れ、予想はしていたのだけれうとは思いますが、新入生の怯えたような姿、そして応援歌指導。修猷生になるための通過儀礼が今年も例のごとく行われました。

五月の連休明けには新型コロナウイルスも五類になり、ロノウイルスも外す生徒が教室でもマスクを外す生徒がぼちぼち見られるようになり、深々、マスク姿の生徒の方が多かったですように思います。五月末には創立記念行事、式典では同窓会副会長の谷川浩道様からの御講演、午後には生徒向けのキャリアセミナーのため当番の皆様がたくさん駆け付けていただき、ありがとうございました。

六月には、大運動会が動き始め、前期中間考査を経て文化部発表会があり、各文化部はこれまでの成果を形として現してくれました。同時に運動部活動の活躍も顕著で、多くの運動部が県大会に駒を進めました。

七月には第二六回アメリカ研修も行われ、意気揚々と出発した研修生二名は、西海岸の地で同窓生の皆様の歓迎を受け、世界に広がる修猷の輪を感じたことと思います。

八月後半は、酷暑の中、大運動会の練習にも日に日に力が入っていく様子が見られました。そして九月の大運動会、四千名を超える来場者があり、声出しなどの制限の無い久しぶりの大運動会、生徒諸君は力の限りを尽くし、感動の日を終えました。

昭和48年卒 学年便り

高山信彦 / 中川淳雄 (昭和48年卒 常任幹事)

私たちが昭和48年卒は「しつとーや会」と称しています。51年前の卒業です。在学当時は教室にエアコンが無かったものの、夏は今のような猛暑は殆ど無く、木製の窓を開ければ爽やかな風が教室に入ってきました。窓の外には西鉄の路面電車が走り、博多どんたくの頃には「花電車」がどんとくを流しながら通るのを眺めて授業を受けていました。今の「よかトピア通り」が当時の海岸線で、体育の授業で波打ち際の砂浜や愛宕山までのランニングは、今と違っては良い思い出です。

一層強くなり、卒業してから福岡、東京、大阪での修猷館同窓会総会の幹事学年の時に一気に仲間が増え、絆も強くなりました。

卒業○×周年などに大集合して、京都観光やUSJや太宰府天満宮や能古島に行きました。山歩きも時々行っています。2016年からは毎年11月初旬に福岡でしつとーや音楽会がライブハウスのような会場を借り切って開かれ、年ごとに演者が増え、今では全国から同級生30人くらいが楽器を持ち寄り、趣味のレベルからプロ級までの演奏と歌を披露し、観客の同級生も20人ほど集まり、すっかり定着した恒例のイベントになっています。



(2022年11月6日しつとーや会の音楽会)

各地区の総会の幹事の時や

東京地区では新型コロナウイルス

ウイルスの3年間の自粛生活を抜け、やっと昨年から集まることができました。退職し第二の人生に入った者もいて、集まれば「今、なんしよ」と。これから始まり、新たな趣味の世界の開拓などを語り合ったり、修猷の木製の窓辺での集いから始まったこの50年、いつも賑やかで笑顔が絶えませんでした。今年は70歳の古希の祝いしつとーやの仲間でもやりましたと思います。

しかし、第二の人生を福岡へ帰って実家へ移り住む者、亡くなってしまった者がいて、東京しつとーや会は少しずつ減っています。その分、絆をもっと強く広げて、変わっていくつもりです。



岡 武志 (H6卒)

上和田 淳 (H5卒)

この度、副幹事を拝命しました平成5年卒の上和田淳と申します。二木会ゴルフを担当致します。東京修猷会を今以上に、もっと盛り上げる所存でございます。何卒、宜しくお願申し上げます。

おくやみ



令和五年八月二十一日、相談役の宮川一二(みやがわいちじ)氏が満103歳8ヶ月で逝去されました。長きにわたり最高齢会員として、東京修猷会を牽引する大きな存在でありました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

編集後記

引越しばかりの人生で、高校卒業後かなり早い時点で同窓会のお知らせも会報も届かなくなりました。総会参加経験はあるものの、二木会も会報もどんなものか全く知識がない状態で、なぜか編集長をやることに。しかしながら、超売れっ子ライターの本患理子氏を無理やり巻き込み、同じく超売れっ子デザイナーの國分聖氏に4〜6ページのデザインを押し付け、執行部で会報発行に携わってこられた中川美穂さんの強力な支援助と指導のもと、何とか発行にこぎつけることができました。ありがとうございます。

会報発行を通じて、館友の皆さんの修猷館への愛の深さを改めて感じました。ご多忙な中、会報のため多くの館友が快く寄稿やインタビューに応じてくださいました。ご協力いただいた皆様には心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

H8卒 平八会 本郷(岡田) 由紀

2023年度寄付金

2022年11月1日から2023年10月31日までに多数の皆様から御寄付をいただきました。ありがとうございました。御礼の意味を込めて御名前を掲載させていただきます。(敬称略・卒年別)

- (昭26) 藤吉敏生、(昭28) 吉見健三、(昭29) 山下一彦、(昭31) 金谷弘、(昭31) 板垣征男、(昭31) 伊達直哉、(昭31) 村田和夫、(昭31) 影山滋、(昭31) 箱島信一、(昭32) 平野熙幸、(昭32) 國分英臣、(昭32) 鳥居健太、(昭32) 横典躬、(昭32) 國分英臣、(昭33) 貫隆夫、(昭33) 寺澤美和子、(昭33) 山口浩利、(昭34) 行武賢一、(昭34) 青木昭雄、(昭34) 讀井邦夫、(昭35) 可児晋、(昭35) 伊藤洋子、(昭35) 三嶋睦夫、(昭36) 土井高夫、(昭36) 横倉稔明、(昭36) 丸山忠夫、(昭36) 濱地康彦、(昭37) 田中征男、(昭37) 小野寺夏生、(昭37) 大須賀頼彦、(昭38) 上田茂、(昭39) 長正次郎、(昭39) 久保田康史、(昭39) 田中滋章、(昭39) 貝島資邦、(昭39) 松本陸彦、(昭40) 棚町精子、(昭40) 山形紀明、(昭40) 井上浩、(昭41) 森田澄夫、(昭41) 有山賢良、(昭41) 恒松芳一、(昭41) 安田修之助、(昭44) 伊佐裕、(昭44) 甲畑真知子、(昭44) 安川裕行、(昭44) 坂井真知子、(昭45) 本田由紀子、(昭45) 鳥取章二、(昭46) 中村伸生、(昭46) 栗山英俊、(昭46) 森山幹夫、(昭46) 土肥研一、(昭46) 鹿兒島正信、(昭47) 田辺宣孝、(昭48) 高山信彦、(昭49) 井手富士雄、(昭49) 古森光一郎、(昭49) 橋村秀喜、(昭50) 野中哲昌、(昭50) 橋詰真義、(昭51) 久保田馨、(昭51) 安東泰隆、(昭51) 油田哲、(昭51) 加藤純一、(昭54) 中原誠也、(昭56) 田中昭人、(昭57) 遠藤功暁、(昭57) 遠藤亜子、(昭58) 原沢由美、(昭59) 服部豊、(昭60) 川西伸明、(昭60) 朱雀誉史、(平3) 谷井哲也、(平5) 澤木祐介、(平16) 桑山耕平、昭34年卒学年、昭45年卒学年、昭56年卒学年、修猷館同窓会、中京修猷会、田原秀則、中神智文館長、中嶋利昭

東京修猷会 年会費納入のお願い

東京修猷会の会報の印刷・発送をはじめ年間行事等の活動は、全て皆様の年会費3,000円で運営されております。どうぞ会費の納入にご協力ください。

●年会費は年間を通じて受け付けております。

郵便振替、銀行振込、コンビニ振込、クレジットカード決済が選べます。二木会や総会の受付でも可能です。

郵便振替

口座名義：東京修猷会事務局 口座番号：00170-6-172892

銀行振込

銀行名：ゆうちょ銀行 口座名義：東京修猷会事務局 店名：〇一九(ゼロイチキュウ) 店番：019 預金種目：当座 口座番号：0172892 同封の振込用紙をご利用下さい。

コンビニ振込

東京修猷会のホームページから申込みください。

クレジットカード決済

《東京修猷会 https://shuyu.gr.jp/ky/2016/01/nenkaihi.html》

お振込のうち年会費を超える額はご寄付とさせていただきます。郵便振替・銀行振込は会員の特定が困難な場合があります。必ず卒年をいれるようお願いいたします。